

● 伝説愛の物語／頼聰公と弥千代姫／

◆伝説愛プロジェクト

2016年、高松市・彦根市姉妹城都市50周年を記念して、頼聰公と弥千代姫の愛の話にフォーカスして、婚活列車、新作歌劇、大絵巻、バスツアーを企画、製作、開催しました。現在、プロジェクトチームは役目を終え解散しています。

また、伝説愛の物語は、2015年、玉藻公園に寄贈した大絵巻製作時につくりました。

時は、徳川三百年の歴史が終焉を迎えようとする幕末、明治維新の頃。高松藩、彦根藩の親交のなかで生まれ、黒船来航、開国を経て明治へと移る激動の時代に翻弄されながらも、なお、潔く凛とした、深い愛と強い絆に結ばれた最後の高松藩主・松平頼聰公と江戸幕府大老で彦根藩主・井伊直弼の愛娘・弥千代姫の胸が熱くなる物語です。

開国が攘夷かで揺れる幕末、幕府の中核をなす江戸城溜詰大名だった高松藩松平頼胤と彦根藩井伊直弼は親交も深く、開国の衆議も大詰めの安政4（1857）年9月26日、直弼の次女弥千代姫と頼胤の嫡男頼聰公の縁組が決まります。

政務を離れ父親の顔をした二人にどんな会話があったのでしょうか。それからひと月もたたない、10月21日、頼聰は彦根へと向かい弥千代と初めて出会います。その時、姫は頼聰に自ら茶を点てたと記録されています。当時お姫様が自ら茶を点てるということは稀有なこと。彦根へむかう道々の頼聰、待つ弥千代、そして静かな茶席…二人のあいだにどのような思いが行き交ったのでしょうか。

折しも同じ日、江戸城では二人の父親が米国総領事ハリスと対面していました。これを機に、日本は幕末の激動の時を経て明治維新を迎えることになります。運命のいたずらとしか思えない彦根と江戸の一日。歴史に翻弄される頼聰と弥千代の前途は、この日まだ誰も思いもしなかったことでしょう。

弥千代が後に藩主となる頼聰のもとに嫁いだのは、安政5（1858）年4月21日。頼聰25歳、弥千代13歳。婚礼道具は百十二悼にも及んだという大規模なものでしたが、花嫁の父直弼は、翌々日に大老就任をひかえ、婚儀にできませんでした。二人にとって幸せな日々の始まりとなる筈でした。が、運命の風は二人に爆風となって襲いかかります。

嫁いでわずか2年後、弥千代の父・井伊直弼が桜田門外の変で暗殺されます。変を起こす原因を作ったとして井

伊家と松平家に謹慎などの処罰が決定した文久3(1863)年、弥千代は松平家を去り彦根に戻りました。たった5年の結婚生活でした。弥千代まだ18歳。頼聰30歳。

桜田門外の変で離れ離れになった若い夫婦をよそ目に、世の中は革新の時代を迎えます。明治維新が起り、江戸幕府がなくなりました。

離縁から9年後の明治5（1872）年、皇族の有栖川宮家の仲介もあり二人は復縁します。弥千代27歳。頼聰39歳。頼聰は喜んで弥千代を迎えました。高松藩最後の藩主という立場にありながら再婚しなかった頼聰。妙齡の美しい時にもかかわらず独り身を通した弥千代。9年という長い月日、お二人はどんな想いで過ごされていたのでしょうか。

伯爵夫人として迎えられた弥千代は、その後、頼寿をはじめ三男一女をもうけて、明治36（1903）年、頼聰が亡くなるまでの三十余年を二人仲睦まじく穏やかに暮らし、自身は和歌をよくし、昭和2（1927）年、82歳で天寿を全うしました。弥千代の縁により、昭和41（1966）年、高松市と彦根市は姉妹城都市になりました。（宮本 享宙）

◆伝説愛のうた

頼聰公と弥千代姫の愛のうたです。2016年、新作歌劇のテーマ曲としてつくり、2019年、国文学者・文化勲章の中西進先生の前で披露、たいへんな好評をいただいています。（中西先生の会の会報にて紹介いただきました。）

作詞／宮本享宙、吉田大地
作曲／永町一樹

染め上がる曙色朝焼けの海原よ
新たな日をもたらす光よ

遙か遠く御岳にかかる霞も晴れるだろう
風の瀬戸に静かに立つ舟の波紋

内海の島々に想いは奏でられ
玉藻よしあの頃の色に還る

物語は八千代に続き人の営みも巡る
重なり合う手と手の愛しさは明日へ紡がれてゆく

惹かれあう二つの想いは蒼い宙に導かれ
白銀の星彩に包まれて結ばれ永久となる

川は今日も苔を漱（すす）ぎ彼方へと流れゆく
水は違えど水面は受け継がれてゆく

鶯色の草原に駆け出す通り雨
濡れそぼつ花は強く空を仰ぐ

物語は八千代に続き人の営みも巡る
重なりあう手と手の愛しさは明日へ受け継がれゆく

双葉によりそうやさしさは葵にさす木漏れ日よ
季節を告げる鳥の羽音に今を見つけるだろう

惹かれあう二つの想いは蒼い宙に響きあい
幾千の星が生まれ逝くとも伝説愛をうたう



特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

第9号

高松城復元かわら版

令和3年1月発行

● よみがえる桜御門

桜御門の復元は、平成8年の高松市の「保存整備計画」に位置づけられながらも、諸般の事情が重なり、三度にわたり契約が不調。やっと令和元年12月の市議会で復元工事契約が成立しました。

披雲閣の正面にあたる桜御門の完成により、大手の旭門から入り櫓門をくぐり御殿へ進むという往時の景観が再現することになります。

『小神野筆帖』という古文書には、藩主在国時には、年初めや五節句、使者を迎えるなど特別な日には、白麻地に桜の紋が入った幔幕を張っていたなどという記述もあり、これを再現することは、史蹟高松城跡の史実に基づく「保存・活用」の第一歩となるに違いありません。



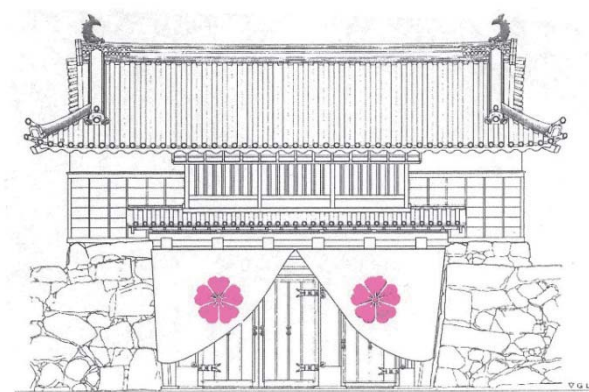
● 理事長 新年ご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、去年はコロナ禍の影響で、全国でも多くの方々が罹災され、それに伴い経済も大きく停滞を余儀なくされました。私たち高松城の復元を進める市民の会でも、近年最大の国難とも言える中で、理事会・総会など定められた会議を開くのがやっとで、講演会をはじめお城見学会なども中止せざるを得ず、十分な活動を行うことが出来ない一年となりました。ただ、ワクチンの開発の朗報も届き始め、特効薬の開発もそう遠くなくされると思います。それは四百三十年の歴史を持つ城下町高松の永い歴史から推し量ると、ほんの一瞬の出来事かも知れません。

令和4年春、桜の時期の完成、披露が待たれます。その時、桜の馬場からの眺めは、多くの市民の期待に応えるものとなることでしょう。



せっかく天守閣再興の機運も高まり、市とも連携して、いよいよ実現計画に向けてという大切な時期での禍でしたが、コロナ禍収束の暁には再び一致団結して天守再興に向けて取り組んでまいり所存です。このような中でしたが、幸い桜御門は今号の特集として取り上げましたとおり、一年後にはかつての姿を再び甦らせます。このことは次のステップとして、天守再興への新たな原動力になることと期待されます。

会員皆様の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、今年一年が次に向けての発展の年になりますよう、併せて皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

（古川 康造）

● 桜御門略年表

1588年 (天正16年)	生駒親正による高松城の築城開始。
1627年 (寛永4年)	幕府隠密の報告書『讃岐探索書』や『寛政4年高松城図』に、桜馬場と三の丸をつなぐ土橋北側に桜御門が描かれている。
1640年代中頃	『高松城下図屏風』では櫓門として描かれており、当時は人が北から南に向かって門を通り、桜御門の南側に位置する対面所に入っていく流れであった。このことは、『小神野夜話』に「東勝手の者どもは、桜御門南側に入出致候」とあることから裏付けられる。
1642年 (寛永19年)	松平頼重入部。
1671年 (寛文11年)	この年から始まった頼重・頼常による高松城の大改修や1700(元禄13)年には、二の丸にあった御殿と対面所の機能を一体化させた改築が行われる。
1884年 (明治17年)	天守解体。
1917年 (大正6年)	披雲閣完成。
1944年 (昭和19年)	月見櫓・水手御門・渡櫓・良櫓とともに国宝に指定されることが決定されるも、官報告示がされないまま翌年高松空襲により焼失。

● 復元課題の解決

市によると、桜御門の復元には(1)文化庁復元検討委員会の審査、(2)建築基準法の適用除外の審査、などの課題がありました。(1)については、現存している礎石、石垣の遺構や古写真、絵図、焼失前に桜御門に入った経験を持つ古老からの聞き取りなど一つひとつ資料を整え、平成24年度から3年かかり許可に至った、とのことでした。



大正時代の桜御門

● ここまで進んだ復元工事

工事にあっている清水建設の藤沢雅人工事長さんにお聞きしました。

(イ) これまでどんな準備作業を行ってきたのですか？

木材の調達・加工は、福井の工場で行われており、城内に残る現存建物の木材の使われ方や全国にある櫓門の類例調査によって、建物1階はケヤキ、2階はマツを主用材として使う予定です。



桜御門で使用予定のケヤキやマツ



繰り返し行われている荒壁土の養生

左官工事は、城内で荒壁土の養生が進んでいます。また屋根工事については、瓦の製作を古写真や発掘調査結果に基づいて進めています。

(ロ) いつ頃から現場作業に入るのですか？

現場に囲いを作り、作業が始まるのは2月頃からはなる予定です。その時はご不便をおかけしますがよろしくお願ひします。

(ハ) 古い建物の復元にあたって留意していることは何ですか？

古写真等を参考にすべてを確認しながら作業を進めていますが、そのプロセスを残すため、記録をしっかりとっています。このことは、史実に忠実であると同時に後世の人たちの為でもあると考えています。



古写真より復元する鯨瓦のデザインを確認するための粘土型

(ニ) 工事の進み具合はどのように周知されるのですか？

現地での作業が始まれば、仮囲いの外側にモニターを設置し、内部の様子を公開するほか、弊社のホーム

ページは【シミズ社】で検索すれば工事の進捗を確認出来ます。なお、高松市においても時期を見て見学会を予定しているようです。



発掘調査出土資料を参考に制作

● お知らせ

桜御門の名称の由来となったとされる桜の紋入り幔幕(イラスト参照)一式を竣工時に本会から高松市に寄贈する予定です。

市の内諾を得ていますので5月の総会で正式に決定します。(理事・事務局長 谷本 義隆)

● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人会員

(公財)松平公益会、(宗)石清尾八幡神社、高松市婦人団体連絡協議会、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、玉藻公園(指定管理者：香川県造園事業協同組合)、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、(公)高松青年会議所、(株)香川経済レポート社、香川証券(株)、(株)喜代美山荘、ネットヨク高松(株)、(株)二蝶、(株)アムロン、(株)菅組、高松帝酸(株)、(株)香西工務店、高松商運(株)、久米加(株)、(株)森造園、(株)ネクサス、高尾石材(株)、四国興業(株)、大塚整形外科医院、(有)富岡建築研究所、(株)安藤・間四国支店、後藤設備工業(株)、(株)西部広告社、三条山下内科医院、(株)オーディオサミット、(有)角田米穀店、(株)西崎組、(株)EBISU、西日本土木(株)、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、小手毬、(有)魚夏、(株)朝日段ボール、(株)フェアリーテイル、(有)折鶴(居酒屋 渋谷衛門)、ハウス美装工業(株)、藤本秀邦社中、大樹生命保険(株)高松支社、(株)ツグ炭酸工業 (順不同)

【協賛団体】 高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会 (順不同)

特定非営利活動法人 高松城の復元を進める市民の会

(事務局) 〒760-0029 高松市丸亀町13番地2(高松丸亀町商店街振興組合内)

TEL: 087-823-0001 FAX: 087-823-0730

ホームページ <http://www.takamatsujyo.jp/>

高松城の復元

検索

新規会員募集 【年会費】個人2,000円(一口) 法人10,000円(一口)
申し込みはHPのトップページ上部右横の「入会申し込み・お問い合わせ」のバナーから